

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙「みらい」
NO. 4647
26年5月22日(金)
TEL・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

夏の必須アイテム「ファン付きウェア」 適切な使用で夏を乗り切ろう

おはようございます。近年、配達・建設・誘導など野外作業現場の夏の必需品となっている「ファン付きウェア」。熱中症対策として郵便局の集配部でも利用されています。長中局では局からの「ファン付きウェア」の支給がないため利用者は限られています。長崎北局、長崎東局などでは熱中症対策として過去に支給（試行局として貸与されたものも含む）された経緯もあり、多くの社員が着用しています。しかしその一方で、ファン付きウェアに使用されるリチウムイオンバッテリーの事故リスクが注目され始めています。SNSや報道などでも「ファン付きウェアのバッテリーが爆発した」「充電中に発火した」といった情報が散見されるようになってきました。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

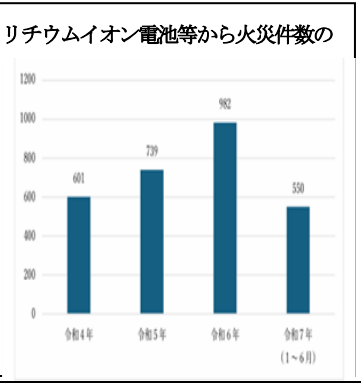
期間雇用社員の希望者全員が正社員化を。

めいめい、均等待遇、なげんご差別！

独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）には、2020年から2024年までの5年間に、ファン付きウェアを含む「リチウムイオン電池搭載製品」の事故報告が1860件ありました。事故の約85%が火災事故につながっています。また事故発生件数は春から夏にかけて気温の上昇とともに増加する傾向にあり、6月～8月にかけての事故発生件数が最も多くなっています。製品別では「モバイルバッテリー」の事故が最も多く報告されています。またファン付きウェアの発火事故が年々増加しており、注目される項目

となつていきます。特に夏場の高温環境での使用や充電中に事故が発生しやすく、労働現場・店舗での火災となった事故が報告されています。

バッテリー
発火要因の特徴
 高温環境：炎天下での使用や充電により内部温度が急上昇。
 非純正バッテリー使用
 …安全基準を満たさない製品は事故率が高い。
 経年劣化：長期間使用したバッテリーは内部劣化が進み、夏場に事故が増加、が挙げられます。



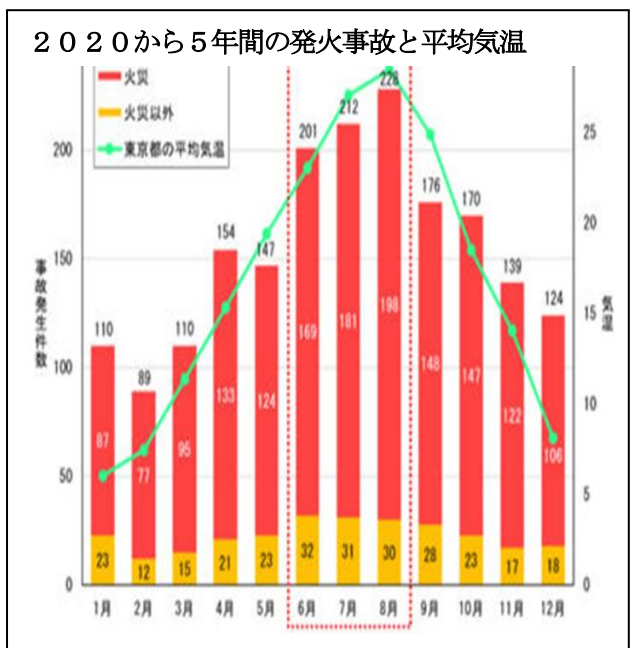
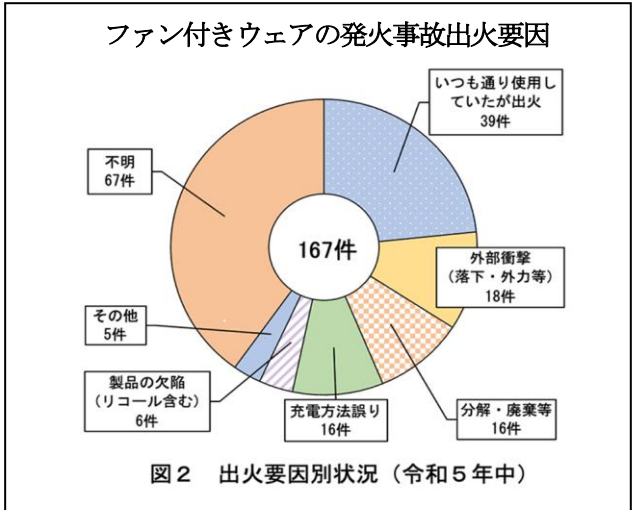
代表的なファン付きウェアの発火事故例

- ・東京都国立市の自動車販売店火災 2025年7月、閉店後の店舗で充電中のファン付きウェアから出火。約500平方メートルが焼失。
- ・工事現場での発火事故 夏場の屋外作業中、作業員の着用していたファン付きウェアのバッテリーが発熱・発煙。作業中に火災が発生する危険性が浮き彫りになりました。

ファン付きウェアは夏場の必須アイテムで、近年は朝の内から気温が高く一日中稼働させているという人も多いと思います。このため交換・予備用のバッテリーやモバイルバッテリーを併用している人もいます。

しかしバッテリーは扱いを誤ると、人身事故や大規模火災につながる危険があります。予備・交換用のバッテリーやモバイルバッテリーの管理も含め、適正な取り扱いで事故を防ぎましょう。

今年、昨年の熱中症対策グッズのアンケートがまだありません。ファン付きウェアの支給も選択肢に入れることを要望します。



熱中症対策の一環として「ファン付きベスト」の導入を拡大。運転の妨げとならないよう、ファンの取り付け部分を背面から側面にずらした仕様に改良したファン付きウェア約7万5000着を貸与しています。

期間雇用パート労働者の皆さん！ 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。
 1集-海江田, 2集-向井, 3集-山田, 支部・分会の役員へ。

郵政ユニオン長崎のホームページはこちら

